

分考通信

第七号
2017年
10月号
文責
中伸一

文化祭

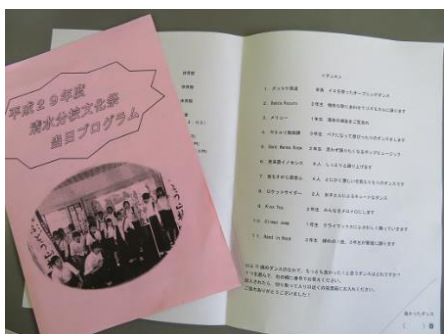
ダンス発表

10月29日(日)台風が接近し開催も危ぶまれるなかでしたが、幸いにも第64回清水分校文化祭を開催することができました。ダンス発表、外は大雨で気温も低いなかでしたが、体育館内には熱気があふれていました。生徒はこの日のために2ヶ月間、体育の授業や放課後を使って必死に練習してきました。



ダンス表彰

今年は生徒会の主催企画として、会場の方に一番よかったと思うダンスに投票していただき、その結果をもとに各表彰を行いました。競争意識をもって取り組むことは日頃ありませんので、貴重な経験になりました。表彰式では互いに健闘を称え合ってくれました。投票にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。



ダンス発表を通して

今回、ダンス発表までに生徒と携わっていくなかで、生徒が互いに教え合いながら懸命に取り組む姿勢からは、非常に熱意を感じられました。一方で課題として感じたことは、全11曲の45分間という長時間の中でダンスだけの構成では、観てくれる方が疲れてしまったのではないかと思います。例えば、ダンス中や曲の合間にパフォーマンスをするなど、メリハリのある構成を考えられていたら良かったと思います。ダンスは例年に比べても仕上がりが速く完成度も高かったと思うので、構成面を改良すればより素晴らしいダンス発表になると感じました。人数も少ないなかで課題も多く残りますが、生徒が団結して一人ひとりが最高のパフォーマンスをしてくれたと思います。清水分校の生徒の良さは、全員が頑張ることができることです。3年生による最後のダンス [Hand in Hand] は、その言葉の意味通りに、3年生が手を取り合うように踊っていました。ダンスの最後は全員が登場して締めくくりました。最高のクライマックスでした。



地域の協力を得て



学校の体育館でダンス発表するにあたって、音響と照明のセッティングを地域の方々が準備をしてくれています。その豪華なセッティングにダンス発表を観に来ていただいた方は驚かれるのではないのでしょうか。おかげで生徒は自分たちの成果を思う存分に発揮できました。また、今年は恒例のもちまきの前座として格技場でダンスを踊ることになりましたが、そのためのステージも組み立ててくれました。本当にありがとうございました。

清水分校を

教育要求県民集会でアピール

10月20日(金)第50回教育要求県民集会(民主教育をすすめる和歌山県民連合)で有田川町清水の坂口瑞代さんが「有田中央高校清水分校の自主活動より、分校を考える」を報告してくれました。内容は「分校通信」を読んだ感想を報告してくれました。「広くて小さな町にある高校の存在は、防災や福祉面で役立ち、地域の活性化に重要な役割を果たす」と発言してくれました。

